毎月5日と20日は
無火災推進日です

松ヶ崎消防報

平成 23 年 1 月 10 日
左京消防団松ヶ崎分団
分団長　藤井　照夫

新年あけまして、おめでとうございます。

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては素晴らしい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また、日ごろから、松ヶ崎消防分団へのご理解とご支援、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

ご存知の方もおられると思いますが、京都市消防団では　毎月 5 日と 20 日を無火災推進日と定めており、当分団でも　5 日と 20 日の夜 8:00 ～ 10:00 まで　松ヶ崎小学校の南に隣接する「松ヶ崎消防分団の詰所」にて地域への防火広報活動を実施しております。また､春、秋の火災予防運動、年末特別警戒、小型動力ポンプ操法訓練など年間を通じた活動をしております。私も参加したいと思われる方は、無火災推進日当日にお気軽に詰所にお越しください。

さて、昨年 6 月に三宅照男後援会長の進言を頂き、阪神淡路大震災で大きな被害を受けた北淡町の消防分団と交流会を持つことが出来ました。彼らの色々な話の中で大変感動したことがありました。それは、災害が発生した当日の朝 5 時 45 分からその日の夕方までに住民 10000 人以上の所在が判明したことです。大混乱の中で行政と住民が一体となって活動できたからこそ 12 時間程度で全住民の所在が判明できたと思います。その要因は何か？「地域の住人同士のつながりが消防分団を通じて培われていた。」という内容の言葉を小生は大変重く受け止めました。人と人とのつながりがいかに重要であるかを示唆していると思います。人と人とのつながりをさらに深めるのは信頼しあえるかどうかと言うことだと思います。松ヶ崎消防分団においても団員同士の交流から各種団体との交流によって、より広くより深いつながりを構築し、地域の信頼に応える組織を目指したいと考えております。本年も皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

最後になりますが、昨年の火災状況は、京都市内では 155 件 (11 月 30 日現在：2009 年比 -11 件）と減少しましたが、左京区内では 5 件増加し 20 件になりました。死亡者数は 3 名で -2 名と減少しています。火災件数が増加しているにもかかわらず死亡者数が減少している理由は、住宅用火災警報機によって火災を早く認識して避難行動をとれたことが報告されています。京都市消防局と松ヶ崎消防分団では防火と同時に早く避難する（命を守る）ため、住宅用火災警報器の取り付けを推進しております。皆様におかれましても、命を守るため住宅用火災警報器の設置をできるだけ早くお願いします。

左京消防団　松ヶ崎分団長　　藤井　照夫

地域のために活躍する消防分団をよろしく

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

皆様方におかれましては、ご家族お揃いで、輝かしい新年を迎えられましたことと、心からお慶び申し上げます。

私儀、昨年三宅秀典氏に替わり後援会長の大任を賜りました。今後とも変わりませず、学区の皆様方の消防分団への物心ともどもご支援とご協力をよろしくお願いします。

さて、京都府内の消防団も団員の確保が年々困難になる中で、松ヶ崎消防分団は、定員を上回る団員が確保され、積極的に活動を展開しております。お蔭様で、学区内で大きな火災や災害もなく、昨年も京都市の総合査閲において、引き続き市長表彰を受賞いたしました。これも、学区の皆様方のご理解とご協力の御陰と感謝しております。

しかしながら、少子高齢化社会を迎えて、消防団の抱える諸問題・課題も山積しています。社会・経済情勢の変貌と地方 (地域) の時代に向けて、消防団も何かと変貌を余儀なくされています。本来の消防団活動が有効に行える団員の確保が何より必要になってきました。特に、平日昼間の団員の確保は、大きな問題です。ここでは消防団活動（予防、警防、教育、総務）の分業化による団員確保を提案させてもらいます。

○勤務地企業等の協力（地元企業等の社会協力体制の助長、昼間人口の活用）

○中高年（団塊の世代の退職者、消防団退団者の洗い出しによる再入団、ＯＢ会結成による消防分団への支援体制、先進地域取組例の参照～過疎高齢化分団例～）

○女性（昼間家庭人口の分業化による活用、女性特有性格を活用した災害予防活動）

今後とも自治連合会、松ヶ崎自主防災連合会をはじめ、各種団体と協力し合い、分団を先頭に地域が一体となって、安全・安心の為の活動を展開してまいりますので、重ねて学区の皆様方のご支援ご協力の程、よろしくお願いします。

松ヶ崎消防分団後援会　会長　　三宅　照男

消火器や火災警報機を備えましょう。ご相談ご購入は最寄りの分団員まで

左京消防団松ヶ崎分団員　二六名

分団長　藤井　照夫　御所ノ内町
副分団長　小柳　憲治　六ノ坪町（自主防災担当）
〃　北川　憲一　壱町田町
〃　佐橋　学　海尻町
〃　芝山　宗昭　東町
部長　西郡　藤夫　小脇町（自主防災担当）
〃　河村　栄二　三反長町
〃　蒔田　桂三　正田町
〃　宇佐美賢一　海尻町
〃　樋口　晶弘　海尻町
班長　岡田　亨　雲路町
〃　三宅　勝　東町
〃　山田　徹　中町
〃　梅津　康正　井出ヶ海道町
〃　京極　康生　三反長町
団員　木村　宏章　芝本町
〃　梶　広宣　中町
〃　高　靖敏　樋ノ上町
〃　半井　達弥　今海道町
〃　島内　研　三反長町
〃　佐々木　康　芝本町（学生ハウジング）
〃　永原　照士　正田町
〃　三宅　祥文　海尻町
〃　上田　尚玄　東町
〃　山田　勉　井出ヶ鼻町
〃　北川　健志　木ノ本町

団員の異動・退団

三宅　照男・髙尾　菅二・
西野　信雄・竹内　俊隆・
中川　浩

※永い間、ご苦労様でした。
（敬称略）

火の用心

今から 30 年前，九州は福岡県と熊本県の県境に程近い，かつては炭鉱で栄えた西鉄沿線の西の町・大牟田に 1 年余り住んでいた。有明海に面したのどかな町で京都とは趣を異にした豊かな自然を感じることができるところであった。五木寛之氏の「青春の門」で描かれていたぶすぶすと燻る「ぼた山」が方々にあり，石炭から起こった近代産業の「その後」を幾つも見ることができる，京都育ちの内弁慶には経験のない時代のダイナミックな躍動を感じられて魅力的であった。気候は概して温暖だが，湾の向うは東シナ海，そして日本海や太平洋へと続いていく。冬になれば雪も降り，夏から秋にかけては台風，その雨，風の激しさには仰天した。ある晩夏の朝，台風一過の濁流の川床には，何台もの車が仰向けになっていた。人生初めての自然災害との出会いであった。当時の光景と驚きがいまも鮮明に思い出される。その後，生地に戻り消防士として職を得たが，あのときを超える自然災害に遭遇していない。幸いである。しかし，市内では車が暴走し多数の人を巻き込む事故が続き，また，区内では，これまでと打って変って火災が多発している。11 月の深夜，一人でお住まいの高齢女性が失火で犠牲になられた。これらの事故の報せに接するたびに，自然災害にはない「痛み」を感じてしまう。遺伝子が現代の危うさを感じ，神経を刺激しているのか。多くの方がこの「傷み」を感じておられることと思う。

「火の用心」は火の怖さとありがたさ，畏怖と感謝をあわせもつ，いつの時代にも通じる祈りの言葉ではないでしょうか。一人で言えば一人分，一歩外に出ればこだまして，その言霊が多くの人の「痛み」を癒すように思います。今年の冬も皆さん方に「防火の見回り活動」をお願いしています。是非，ご参加くださいますようお願いします。

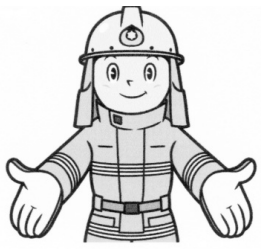
左京消防署長　　荒木　俊晴

フレッシュマン紹介

北川 健志

2010 年 5 月より松ヶ崎消防分団に入団いたしました。

松ヶ崎に移り住んで約 20 年になりますが、消防団の活動で知っていたのは毎月の巡回広報ぐらいでした。入団直後は、総合査閲にむけて数日前から毎晩のように行進や放水の訓練があり、緊張感のある先輩団員の活動姿勢に驚きました。夏祭りや体育祭などの区内行事の警備なども、地域への貢献度が大きなものだと知りました。研修で淡路島の北淡地区の消防団の方との交流会では震災後の消防団の様子をうかがい充実した研修でした。また、救命講習に参加するなど、この半年余りでたくさんのことを経験させていただいています。



最近は、天候の異変による想定外の災害もあり、地域に根づいた消防団活動が重要ではないかと感じます。少しでも防火、防災など地域安全に役立てるよう活動したいと思いますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

新たな取り組みしています。

2010 年 11 月 1 日、松ヶ崎消防分団は、松ヶ崎小学校にゲストティチャーとして招かれ、4 年生に社会科の授業として、消防団の役割や活動内容をお話しいたしました。

2010 年 11 月 3 日の子供フェスティバル (少年補導委員会主催) では、松ヶ崎消防分団とおやじの会が、AED による応急手当をテーマとして（松ヶ崎小学校の協力を得て自主制作した）紙芝居「こんなときどうする」を子供達に上演しました。

もうつけましたか？ 住宅用火災警報器は

寝室 → 煙感知式
階段 → 煙感知式
台所 → 煙感知式（※）

※調理中の煙や湯気により、容易に作動する場合、煙感知式に替えて熱感知式を設置することが出来ます。